

入社3年目で思うこと

(株)ブリヂストン 不二真人

(工学部 昭和60年3月卒業)

「大学生生活の6年間は、私にとっていったい何だったのだろうか。」と、大学の話題が出るたび考えます。

私は広島大学第3類を受験（本当は1類を希望していた）し、少しでも化学式等の少ない化学工学を選びましたが、最初からやる気がなく、成績は全体の中ぐらいいました。売り手市場の就職でも希望の会社へ入社できるわけではなく、より自分を磨くために大学院を受験しました。これは研究室で御指導いただいていた浅枝先生の一言、「今時、院でみっちり勉強しないと企業に入っても通用しないぞ。」にも影響を受けました。（これは今考えるとそのとおりの結果になっています。）そして院で、2年間みっちりしごかれた後、就職をむかえ、(株)ブリヂストンに入社しました。私は研究室で無機分離膜の研究を先生の御指導で行っていましたが、入社した所はまったく違うゴムの会社です。そのため、大学の研究室でのノウハウはまったく役立っていませんが、物の考え方は今の私の基本になっていると思います。

研究室と企業の違う所を挙げてみますと、

1. 非常に忙しい（忙しいという言葉につきます）
 2. お客様から給料をいただいている意識
 3. Output 指向（結果を出さないとダメ、失敗も結果である）
 4. 自分が行った仕事には全責任を持たなくてはいけない（後にトラブルでも出れば自分にふりかかってくる）
 5. みんな積極的に行動する（仕事の取り合い）etc.
- があります。

しかし一番の違いは何でも“納期”が付いてくる事でしょう。当然納期に間に合わない（この場合その人の評価は下がります）、十分な研究・開発が出来ない、しかるに残業となります。あるいはメカニズムが分からないまま結果が良いため Go するといった事もあります。つまり企業において一番重要なのは開発のスピードなのです。

加えてもう一つ挙げますと、会社においては、やりたくない・絶対いやだといった仕事も回ってくるという点があります。会社は組織なので仕方ありません。いやだからやらないでは会社は成り立ちません。自分がやらなくては行けないという積極的な態度、なぜこうなるんだろうという好奇心、探求心を持って進めていけば最初嫌いな仕事でも楽しくなるはずで、企業は勉強だけ出来る、頭の良い人を望んではいません。勉強出来る人と仕事出来る人というのは違うのです。仕事出来る人というのは上記の“積極的な態度、好奇心・探求心を持っている、発想が素晴らしい人、仕事の進め方がうまい人”でしょう。私はそれらを院生の時に教わった気がします。大学6年間で多少なりとも身につけたと思います。だからこそ、今の自分があると信じています。

とりとめの話になってしまいましたが、もし、皆さんが自分の希望と違う会社に入っても、物の考え方等はすべての仕事で共通です。研究室で習った専門的な知識など、最初の武器でしかありません。就職される方は、入社までに自分をどんどん磨いて下さい。まず、自分に与えられたフィールドで精いっぱい頑張ってみて下さい。企業は新人に期待しています。